

お金を使った後に

福岡県・福岡県立育徳館中学校 3年 太田 美沙希

私は5年前、自分でこつこつと貯めてきたお金を使って自分のためにエレキギターを買った。小学生にしてはかなり大きな買い物だったが、ずっと欲しかったものを買うことができたこともあり、その時はそのお金の使い方が良いものだともそうでないものだとも考えなかった。

私はその後、すぐにギターを習い始めた。その時は「時間がかかっても絶対に上手くなる。」と思っていた。しかし、それは最初のうちで、だんだんとその気持ちは薄れてきた。なかなか思うようにいかず、投げだしたい気持ちもあったからだ。しかしそれよりも強かったのは私の負けず嫌いな部分だ。私はその後もギターを続けた。そうしているうちに中学生になり、だんだんとギターの楽しさを思い出していた頃、仲の良い友人とでバンド活動をしていくことになった。言い出したのは私。「私はこのギターをずっと弾いてはいたけれど、本当はただ使っていただけで、きちんと活用することができていなかったのかもしれない。これからはこのギターのためにも自分自身でその場を作っていかなければ。」と思ったからだ。そして私は今まで以上にギターに時間を費やすようになった。自分の手で一音一音を作り出していく楽しさを今まで以上に感じる事ができ、そのことに気づかせてくれたこのギターが私の生活の中になくてはならないものになっていた。また、人前で演奏することも増えた。そういったことを考えた時、私はやっとこのギターを活用することができたと感じた。そしてこのギターを買ったことは私にとって間違いなく「良いお金の使い方」だったと思った。

私は「良いお金の使い方」とは「活かしたお金の使い方」と同じものだと思う。どちらも、自分でお金を使ってなにかをした後、そのことをふり返ってみて「良いものだった。」と感じることで成立するものだと思うからだ。

では、そんなお金の使い方をするためにはなにをするべきなのだろうか。買い物の場合、買うときによく考えて買う、ということももちろん大事だけれど、ほとんどのものは、その後本当にそのものを大切にできるのか、自分にとってよい結果になるのか、などは買って使ってみないと分からない。しかし、買ったものを大切にし、何かの目的のために一生懸命に使おうとする心と、そのものに感謝する気持ちを持ち続け

るように気をつけていれば、どんなものでも買ったことを後悔したりせずすむと思うし、その中から自分にとって一生の宝物をみつけることもできると思う。どんなものを通じてでもそのことは実感できる。10円のあめ玉でも、100円のシャープペンシルでも、すでに持っているものでもいいと思う。つまり、ひとつの買い物をふり返った時「活きたものだった。」と実感したいなら、自分で買ったものに気持ちを注ぎ、無駄にしたりしないように心がけることから始めてみればいい、ということだ。

また、お金を使うということは、ものを買うような形に残るものだけではない。例えば、コンビニなどでの募金。人のためにつくすことが自分にとって大切なことであると考え、そのためにお金を使うことが自分にとっては「活きたもの」だと考えるなら、それがその人にとっての「活きたお金の使い方」になる。

人の数だけ「活きたお金の使い方」がある。人によって大切にしているものや考え方、生活している環境や持っている夢は違うからだ。でも、一人一人がきちんと心がけることができれば「活きたお金の使い方」は誰にでもできる簡単なことだ。

私にとってこのギターを買ったことが「活きたお金の使い方」だった。そして私はこれからももっとたくさんのお金を使う。失敗することもあるかもしれないが、「活きたもの」であったと実感できる回数を増やせるよう、今日考えたことを忘れずにいたいと思う。

